

令和6年産 麦前期栽培講習会資料

令和5年9月29日
 JAたかさき
 西部農業事務所普及指導課

基本技術の励行

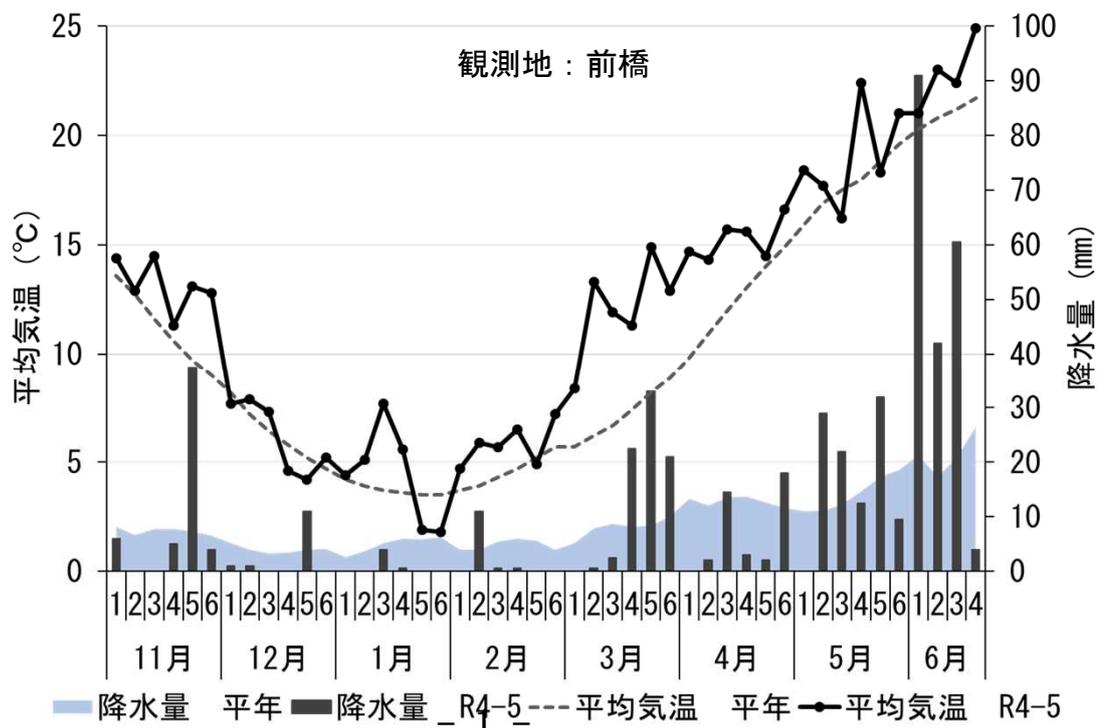
1 令和5年産麦の振り返り

2月以降平年より高い気温で経過したため生育が早まり、出穂期・成熟期は平年より5～7日程度早まった。6月8日以降に降雨が続き、収穫作業の遅れにつながった。品質は、成熟期間が短かったことと枯れ熟れ症状の発生もあり、硬質粒が多かった。

品種	等級	ランク	タンパク質%	灰分%	容積重g/L	FN
さとのそら	2	A	9.8○	1.49○	831▲	436○
きぬの波	2	A	9.4▲	1.35○	840○	411○
ゆめかおり★	1	B	10.3▲	1.38○	829▲	451○
日本めん用小麦 (やや低・低アミロース品種☆:許容値)		基準値 許容値	9.7～11.3% 8.5～12.5% (8.0～13.0%)	1.60%以下 1.65%以下	840g/L以上 —	300以上 200以上
パン・中華めん用小麦★		基準値 許容値	11.5～14.0% 10.0～15.5%	1.75%以下 1.80%以下	833g/L以上 —	300以上 200以上

品種	等級	ランク	細麦率%	白度	容積重g/L	硝子率%
シュンライ	2	A	1.8○	46○	709○	49▲
主食用小粒大麦		基準値 許容値	2.2mm篩下に2.0%以下 —	43以上 40以上	690g/L以上 —	40%以下 50%以下

※基準値を満たす：○ 許容値を満たす：▲
 ※ランクA:基準値を3つ以上かつ許容値をすべて達成、B:基準値を2つ以上かつ許容値をすべて達成、C:基準値を1つかつ許容値をすべて達成、又は基準値を2つ以上達成するが許容値を達成していない

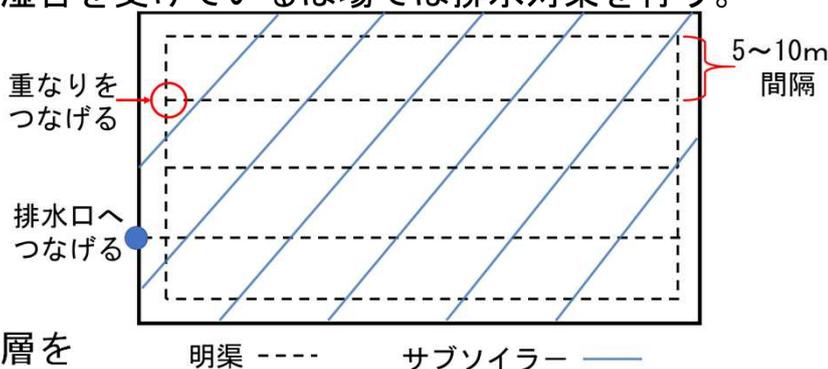


2 排水対策

播種後の生育不良を防ぐため、湿害を受けているほ場では排水対策を行う。

(1) 明渠による排水

ほ場の周囲及びほ場内5～10mごとに30cm程度の溝をつくり、排水路につなげて、ほ場の水を排水しやすいように明渠を設置する。



(2) 深耕による深度破碎

サブソイラーなどで固い作土層を破碎し、排水性をよくして、土壌を軟らかくする。

3 枯れ熟れの要因と対策

枯れ熟れの主な要因	対策	効果
高温乾燥による枯死	深耕の実施 麦踏みの実施	根域の拡大 分けつの促進、根張りの促進
湿害による根の傷み、 生育不良	排水対策	湿害対策、根の活性維持
肥切れによる養分不足	適期追肥の実施	植物体の活力維持、増収、タンパク質向上、養分競合の防止

4 土づくり

(1) 深耕

作土の深さは15cm以上になるよう耕耘し、作土深を確保する。

(2) 有機物の施用

土壌の種類及び土性に応じて、堆きゅう肥、稲わらなどの有機物を施用して地力を高める。

(3) 土壌改良剤の施用（土壌診断の実施）

麦類は酸性土壌によって根の生長を阻害されるため、土壌酸度の改善を行う。

pHの目標値：6.0～6.5

酸度矯正：苦土石灰 又は、ケイカル 100～150kg/10a

リン酸の補給：ようりん 60kg/10a

5 肥培管理

- ・ほ場の地力や品種特性に応じて適正な量を施用する（目安は、下表参照）。
- ・**茎立期前に必ず追肥を行う。追肥ができない場合は、基肥一発肥料を施用する。**
- ・「ゆめかおり」は、開花期ころにも追肥を行う。
- ・「シュンライ」は、タンパク質含量が高まると硝子率も高まるため、茎立期以降は追肥しない。また、畑作では水田作よりもタンパク質含量が高くなりやすいため、注意する。

品種	さとのそら	きぬの波	ゆめかおり	シュンライ
基肥窒素量 (kg/10a)	8～10	6～8	6～7	6～9
追肥窒素量 (kg/10a)	2～3	4～6	2～4	2～3

6 播種

(1) 播種時期及び播種の順番

**荷受けの順番変更：「シュンライ」→「きぬの波」→「さとのそら」
それに伴い、播種の順番も下記表のとおり変更をお願いします(別紙も参照)。**

◎適期播種が収量に大きく影響する。

- ・早播き－幼穂の凍霜害や縞萎縮病、枯れ熟れの発生を助長する。
また、雑草も発生しやすくなる。

- ・遅播き－有効分げつが減少、出穂・成熟が遅れて減収する。

※共同で赤かび病の防除を行う場合は、適期防除できるように、地域内で播種時期を検討してください。

播種順番	品種	播種時期
1	シュンライ	必ず11月中に播種を終了し、 早刈り、刈り遅れを少なくしていく
2	きぬの波	11月中旬(11/10～20)中心
3	さとのそら	11月半ば(11/15以降)～下旬中心 遅くても12月上旬まで

(2) 種子消毒

- ・小麦なまぐさ黒穂病、大麦斑葉病など種子伝染性病害の防除を行う。
※小麦なまぐさ黒穂病は、畑作の連作に出やすいので注意する。
- ・播種後にハト・スズメなどの食害がある場合は、忌避剤を用いる。

作物名	薬剤名	適用病害虫
小麦 大麦	ベンレートTコート	条斑病、なまぐさ黒穂病、 裸黒穂病、斑葉病
小麦 麦類	キヒゲンR-2フロアブル	なまぐさ黒穂病、ヤギシロトビムシ キジ、スズメ、ハト

(3) 播種量

- ・厚播きすると過繁茂、軟弱徒長の原因になり、倒伏の危険が増し、減収や品質低下につながる
- ・湿害を受けやすいほ場や播き遅れの場合は、播種量を増やす。
適期から、10日遅れ－20%、20日遅れ－30%程度増量する。

	品種	播種量(kg/10a)
ドリル播き (密条播) での播種量 の基準	さとのそら、きぬの波	6～8
	ゆめかおり	7～8
	シュンライ	8～10

7 麦踏み

生育に合わせ、3～4回実施する。

麦踏みの効果一分けつを促進、耐寒性や耐倒伏性を高める。

※茎立期(3月中旬)以降の麦踏みは、茎を折ったり、幼穂を傷つけるので避ける

麦踏み時期	回数	備考
本葉3葉期 (12月中)	1回	麦が小さいころは軽い麦踏みとする
1～3月上旬	2～3回	暖冬の年や出芽数が不足、過繁茂の時は、1～2回多く行う



8 雑草防除

- ・ **播種直後速やかに土壌処理剤を散布する。**
- ・ 土壌処理剤は、同一薬剤を連用すると抵抗性雑草の発生を助長するので、ローテーションして使用する。
- ・ 除草剤の効果を高めるため、碎土は細かく丁寧に、播種後はローラーで鎮圧。
- ・ 覆土は2～3cmとする。
- ・ 生育期に雑草が繁茂する場合は、茎葉処理剤による防除を行う。

9 難防除雑草対策

(1) スズメノテツポウ (引用：福岡県、(独)農研機構)

- ・ 可能な範囲で晩播きする。
- ・ 除草剤(土壌処理剤)は、適度な土壌水分がある状態で散布する。土壌が乾いている場合は、使用量の範囲の多い水量で散布する。
- ・ 抵抗性雑草に効く除草剤を使用する。
ボクサー、ムギレンジャー乳剤、リベレーターG(粒剤)・リベレーターフロアブル
- ・ 播種前に繁茂している場合、または、播種後出芽前に発生がある場合は、非選択性除草剤を散布する。
- ・ **麦2葉期ころ(雑草発生始期)までに‘ボクサー’で追加防除する。**

(2) ネズミムギ (引用：静岡県、(独)農研機構)

- ・ 除草剤の体系処理(下表参照)。
- ・ 5本/m²以上の発生数で、次年度に向けた対策が必要になる。

	耕起前	播種	出芽	麦1葉期	麦2葉期	麦3葉期
目的	発生済み個体を防除	播種後～麦2, 3葉期まで抑制				麦3葉期から約1ヶ月抑制
除草剤の分類	非選択性除草剤	播種後出芽前土壌処理剤				麦3葉期土壌処理剤
農薬名	・ラウンドアップマックスロードなど	・トレファノサイド乳剤(2回以内)播種後出芽前～3葉期 ・ボクサー(2回以内)播種後～麦2葉期、小麦2～4葉期 ・リベレーターフロアブル(1回)播種後～麦3葉期				

- ・ 本資料記載の農薬は、令和5年9月6日現在登録のあるものです。
- ・ 農薬使用時はラベルをよく確認し、基準を守り、ドリフトに注意して作業しましょう。
- ・ 『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』